

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年4月17日に全国の6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が行われました。この調査は、6年生の学力と学習状況を把握するために実施されています。今年度の内容は、「国語」「算数」「理科」「児童質問紙調査」となっています。

この調査は、6年生の4月段階での学力の傾向を示し、教育内容を把握することで、本校児童の傾向を推し量る上での重要な資料となるものです。

◆全国の平均正答率と比較して、±3ポイント以内の差である場合は「ほぼ同程度」「やや上回っている、やや下回っている」（◇、◆）、3.1ポイント以上の差がある場合は「上回っている」「下回っている」（△、▼）としています。

【国語】 本校の調査結果の概要及び改善の方向

本校の調査結果の概要

知識・技能

- ◇「言葉の特徴や使い方に関する事項」
・全国平均をやや上回っている

- ◆「情報の使い方に関する事項」
・全国平均をやや下回っている

- ▼「我が国の言語文化に関する事項」
・全国平均を下回っている

思考・判断・表現

- ◆「話すこと・聞くこと」
・全国平均をやや下回っている

- ▼「書くこと」
・全国平均を下回っている

- ▼「読むこと」
・全国平均を下回っている

今回の調査における課題

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

- ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討すること。

- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

- ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

改善の方向

- ・収集した情報の中から必要な内容を整理して書く活動の充実。

- ・異なる世代にインタビューをする活動を通し、それぞれの世代に特有の言葉遣いがあることを考えられる活動の充実

- ・「自分が伝えたいこと」に加え、「相手が知りたいこと」を取り入れて伝えることを意識した話し合い活動の充実。

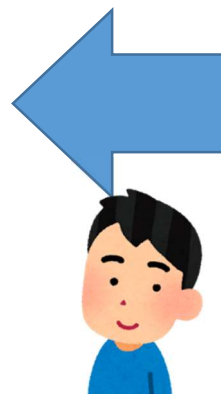
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、違憲とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き方を工夫する指導の充実。

- ・対話の中で、友達と考えを伝えあったり、自分の経験や知識を結び付けて考えたりしながら文章を読む活動の充実。



つまい

教育活動において、目的意識をもった聞き取りを行い、その調査した内容を整理し、まとめる活動（書く活動）を充実させることが必要である。その際、自分本位ではなく相手意識をもちながら、文章の構成を考える力を身に付けさせることが重要である。



【算 数】 本校の調査結果の概要及び改善の方向

本校の調査結果の概要

【学習指導要領の領域等】

▼「数と計算」

- ・全国平均を下回っている

◆「図形」

- ・全国平均とほぼ同程度

◇「測定」

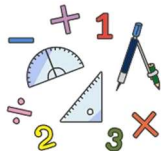
- ・全国平均をやや上回っている

▼「変化と関係」

- ・全国平均を下回っている

◆「データと活用」

- ・全国平均をやや下回っている



今回の調査における課題

【数と計算】

- ・分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できること。
- ・異分母の分数の加法の計算をすることができること。

出題 1/2+1/3

【変化と関係】

- ・「10%増加」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと。
- ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を指揮や言葉を用いて記述すること。

【データと活用】

- ・目標に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。

改善の方向

【数と計算】

- ・「たす数」「たされる数」の単位分数に着目して、既習の整数の加法に帰着できるような学習の充実。
- ・分数が単位分数の幾つ分で表されることを基に、異分母の分数の「加法の計算の仕方」を振り返る活動の充実。

【変化と関係】

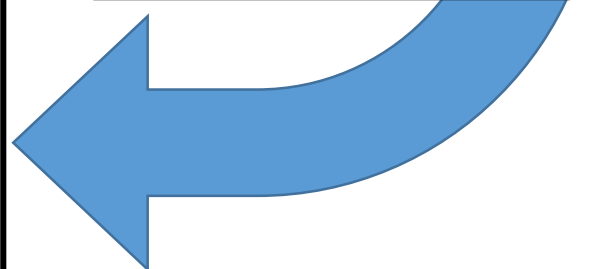
- ・一方の数量を決めればもう一方の数量がどのように決まるのか、あるいは、一方の数量は他の数量に伴ってどのように変化するか、という見方で二つの数量の関係を捉える活動の充実
- ・基準量を100%として10%や110%に当たる比較量を表したり、基準量を1として0.1や1.1に当たる比較量を表したりすることで、「10%増量」について「増えた分」と「増量後の量」の違いを明らかにする活動の充実。
- ・図や式や言葉を用いて説明し、数量の関係を捉える活動の充実。

【データと活用】

- ・複数のデータについて項目の割合を比較することができるという帯グラフの特徴を理解できるようにする活動の充実。
- ・データの特徴や傾向を判断する理由について、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを説明する活動の充実。

つまい

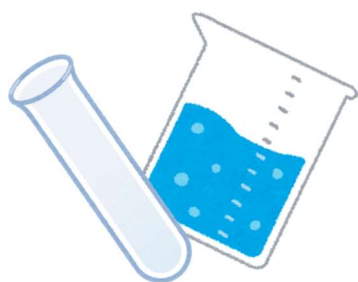
どの領域においても、既習事項をしっかりと押さえつつ、実際に図形を作ったり、図や数直線に表したりするなどの活動を取り入れる。また、活動して終わりではなく、説明したり、考察したりするなどの言語活動を充実させることで、理解力を確かなものにしていくことが重要である。特に「分数」や「割合」といった、二数の関係についての学習を深める必要がある。



【理 科】 本校の調査結果の概要及び改善の方向

本校の調査結果の概要

- ▼「エネルギー」を柱とする領域
 - ・全国平均を下回っている
- ◇「粒子」を柱とする領域
 - ・全国平均をやや上回っている
- ▼「生命」を柱とする領域
 - ・全国平均を下回っている
- ▼「地球」を柱とする領域
 - ・全国平均を下回っている



今回の調査における課題

- 【「エネルギー」を柱とする領域】
 - ・電流が作る磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識が身に付いていること。
 - ・電気の回路の作り方について、実験の方法を発想し、表現できること。
- 【「生命」を柱とする領域】
 - ・花のつくりや受粉についての知識が身に付いていること。
 - ・発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができること。
 - ・発芽の条件について差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができること。
- 【「地球」を柱とする領域】
 - ・氷が解けてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念付けて理解すること。

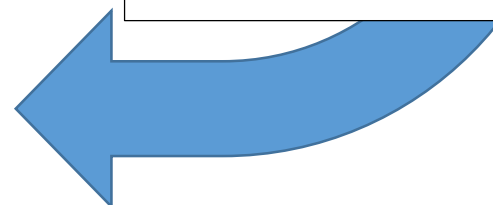
改善の方向

- ・観察、実験の結果や結論を、図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関係付けて理解を深める学習の充実。
- ・自然の事物・現象に影響を与えると考えられる要因を予想し、その要因を変える条件と変えない条件に区別しながら、予想や仮説を基に解決するための実験の方法を計画する活動の充実。
- ・図や表などに整理したり、実験前に計画を見直したりして、検証したい条件のみが変わっているかを確認する学習の充実。
- ・観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見いだす学習の充実。
- ・学習したことと、自然の事物・現象との共通点を分類・整理したり、自然の事物・現象と習得した知識を関連付けて説明したりするような学習活動の充実。

つまい

生活経験や既習事項から、学習の課題を見だし把握すること。着目すべき点を明確にして、解決方法（実験）を考え、実験に取り組むこと。結果を比較し、差異点や共通点について話し合い、考えを表現すること。

課題解決のための学習の流れについて、自ら構築していけるように、丁寧に学習（実験活動）に向き合うことが大切である。



【児童質問紙】 学習・生活の様子

今回の調査では、71項目にわたって生活習慣、学習意欲、学習方法、学習環境等についての質問紙調査も実施されました。ここでは、本校児童の回答の中で、比較的肯定的な回答が多かったものと低かった項目を中心にお知らせいたします。肯定的な回答については、今後も伸ばしていけるようにしていくとともに、否定的な回答については、学校と家庭が一体となって子どもたちに望ましい環境づくりを行うなど、工夫して取り組んで参りたいと思います。

肯定的な回答が多かったもの	否定的な回答が多かったもの
○朝食を毎日食べていますか。 ○毎日同じくらいの時刻に起きていますか・寝ていますか。 ○将来の夢や希望をもっていますか。 ○人が困っているときは、進んで助けていますか。 ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 ○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 ○友だち関係に満足していますか。	▼新聞を読んでいますか。 ▼地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあります か。 ▼将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。

